

市P連ニュース

四日市市PTA連絡協議会
発行責任者：服部 義弘

四日市市PTA連絡協議会事務局

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5
四日市市教育委員会 社会教育・文化財課内
TEL059-354-8238 事務担当/宮本 華代
連絡時間/月・火・木・金 9:00~15:00

会員のみなさまの声をお待ちしております。

四日市市PTA連絡協議会事務局 TEL 059-354-8238 FAX 059-354-8308

会長あいさつ

四日市市PTA連絡協議会 会長 服部 義弘



日頃より四日市市PTA連絡協議会の活動にご理解・ご協力賜り、誠にありがとうございます。

また、今年度は日本PTA東海北陸ブロック研究大会が三重県で行われ、四日市市からもたくさんの方々のご協力・ご尽力いただきましたこと、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、今年度から新しい元号「令和」となり、新しい時代に期待を寄せながらも、依然として続く不況の中、子育てや家庭を守る親御様におかれましては、たくさんのご苦労を抱えながらお過ごしのことと察いたします。

「教育改革・働き方改革」と、新しい時代を迎えたタイミングで、政府も新たな政策を掲

2019年6月2日(日)四日市市勤労者・市民交流センターに於いて、四日市市PTA連絡協議会の総会後に講演会を行いました。講師には、「からくりTVのGTO(グレート! ティチャー・おねえ)」こと教育アドバイザーの下地敏雄さんをお迎えしました。



PTA講演会 夢と人 〜親としての、子どもとの接し方〜

講師 下地 敏夫さん

教鞭をとってこられました。現在は教育アドバイザーとしてテレビラジオの出演の他、講演会や執筆等多岐にわたる活動されております。

講演会の当初より軽快なトークで私たちをGTOワールドへと引き込んでくださいました。

子どもたちの授業時間は50分。時々、刺激を与えないと特に国語は集中して授業を受けられない。だから、「鉄筋コンクリート」を「鉄コンクリート」のように言葉遊びをしたりして刺激を与えながら授業をさせていたそうです。そしてここで私たちにも、「今付けている蝶ネクタイはからくりTVの時に小栗旬君からももらった物

下地さんは明治大学文学部卒業後、埼玉県久喜市・福岡県久留米市の中学校・高校の国語科教諭として30年以上

げたことにより、教育の現場では教職員の方々もさまざまな対応に追われているとお聞きしました。

私たちPTA会員それぞれのご家庭と同様に、日々の過酷な労働条件の中、子どもたちへ熱心に指導いただいているのと同様に、長時間労働から解放され、少しでも早くご帰宅いただき、家族団欒の時間があればと、私個人的には願うところがあります。

PTAという組織は「保護者・教員・地域」で構成される団体であり、全てのバランスが取れてこそ健全な組織運営が成されるのではないかと考えます。

教育改革の中では、新たな科目「プログラミング」所謂論理的思考についての学びの機会が加わります。

先行き不安定な世の中を、強く生きていくための「新たな力」となりうる授業が、今後どのように子どもたちに浸透していくのか、またご家庭でどのように対応していくのか、保

護者の皆様におかれましても、学校を通じて、または子どもたちとのコミュニケーションの中で一緒に学んでいける場面も出てくるかと存じます。

また「不登校は問題行動ではない」という新たな取り組みも始まり、多様な時期に悩みを抱えた繊細な子どもたちにとつて、学校以外でも居場所を作ろうとしていただけていることは、大変素晴らしいことだと共感致します。

共生・共存を求められてきたこれまでの時代から、子どもたちそれぞれが持つ個性を周りの大人たちが一緒に引き出し、厳しい時代を生き抜ける力をそれぞれが見出していけるよう、地域・保護者・学校とより一層の連携を図れるよう、市P連の役割も時代に即した体制づくりが今後必要ではないかと考えます。

最後になりますが、皆様のお子様、地域の子どもたち、PTAの仲間たちとより良い時間を過ごしていただくことを祈念して、結びの言葉とさせていただきます。

人権学習会 戸籍上は男性の女性弁護士が語る 性的マイノリティってなに??

講師 仲岡 しゅんさん



2020年2月1日(日)四日市市勤労者市民交流センターに於いて、大阪を拠点に活動してみえる、弁護士仲岡しゅんさんを講師に迎え人権学習会が開催されました。

すなりと細身で長身の美しさをもち合わせた仲岡さんが今回のテーマ「楽しく学ぶジェンダー・セクシュアリティ」に関する実体験を交えたお話しをしてくださりました。

「セクシュアルマイノリティ(性的少数者)の中で代表的な「LGBT」とは、Lはレズビ

アン(女性同性愛者)Gはゲイ(男性同性愛者)Bはバイセクシャル(両性愛者)Tはトランスジェンダー(生まれもった性と異なる性で生きる人)の略だそうです。

LGBTの他にも性同一性障害などがあり、既にWHOから外されている「障害」という言葉は日本ではまだ使われているそうです。

仲岡さんは中高生の頃に自分はゲイなのか?大学の頃にはバイセクシャルなのか?と思つたことがあり、そんなモヤモヤした気持ちを20歳が過ぎ、司法試験のバイト時代にトランスジェンダーの交流会に参加したことで、自分がトランスジェンダーだと確信し、その時、小さな頃から続いていた根

つ子のモヤモヤがパッと晴れた

そうです。日常生活の、特に学校ではあらゆる所で分けられる世界があり、例えば体育の授業で男子は柔道、女子はダンスと決められていた事で自尊心を傷つけられていた事...

学生の頃、アルバイトで児童の保育指導員を女の先生として勤務した時、低学年の子ども達に色紙を使い「青が男で赤が女とされるのではなく数は少なくても中性の人も居ること」「少数派がいけないことではなく貴重な個性だということ」を話したそうです。

小さい頃からそれらを伝えることで、頭の固い大人にならず、生活しやす社会ができてくることもおっしゃいました。

差別や偏見について考えさせられるとても貴重なお話でした。

三河地区 県立高校展

2019年11月2日(日)四日市市三浜文化会館にて、第3回三河地区高校展を開催しました。

四日市市内からは、保護者424名、中学生452名、小学生40名の計916名、三重県とその他地区合わせて合計1,302名の参加をいただきました。

今年度は昨年のアンケート結果の内容を参考に、実行委員会と協議し、開催準備を進めてきました。開催当日、無事終了できた事ができ、ご協力いただきました全ての方に感謝申し上げます。

皆様のご意見をもとに来年に向け取り組んでまいります。

よ!!」と刺激あるトークをしてくださいました。

子育ての悩みというのは、側から見なくても大なり小なりあるもの。我が子の事だから、親は心配もするし悩みもする。親としてのハートを持つているから親が悩むのは当然の事。悩みがない親は子育てを放棄しているだけ。とおっしゃっていました。

子育ては難問中の難問。法則が見つけれられない。子どもは個。同じ親が育てても子どもはそれぞれ違う。だから、正解はない。親は落ち込んだらダメ。ともおっしゃいました。

また、反抗期というのは子どもに対して失礼な言葉。モヤモヤ期と言うようにしている。大人と子どもの違いは「経験」の差。子どもは人生経験が少ない。この差は大人の武器であり切り札。この時期の子どもには決して触れない物に接するように接しては行けない。親としての上から目線もダメ。余計な争いの元は初めから作ら

ない。その時々に応じた言葉で自分の経験を元にアドバイスしてあげるのがベスト。最終的に子どもに立ち向かうのは親の務め。親子というものは切っても切れない関係。おりを溜めすぎではダメ。怒りを抑えられず虐待する親はバカ者。虐待は自分が優位性を持って相手を追いつめていく事。自分が勝つとわかってやっています。大変なことが起こらないように、おりを溜めず時には自分へご褒美をあげて怒りを収める事も大事。とおっしゃっていました。

そして、子どもへの注意の仕方として、同じ現象でも経過を見なければならぬ。例えば万引きの事例でも、経済的に困つた子とスリルを味わいたくした子と誰かに指示された子と子のように、万引きが悪い事と教えるにしても指導の仕方が全然違ってきます。問題行動の結果だけを見て判断してはダメ。とおっしゃっていました。

夢...。なかなか叶わないけど、持ち続ける事。もちろん、夢は簡単に手に入らない。だけど、夢を持ち続けていると心身ともに若くいられる気がする。とおっしゃっていました。

頑張る事は素晴らしい。頑張りやめず、頭ごなしに怒つてはダメ。夢に向かって頑張つていけば何かいい事が起こるかもしれない。夢は持ち続け

最後に北原白秋の童謡「あめふり」を歌ってくださいました。この歌には素晴らしい友人関係と親と子の意味が込められていてと解説してくださいました。私達にもこのような関係を築いてほしいともおっしゃっていました。

我が家の三姉妹も同じように育てたつもりでも各々の個性があり、また親の私も子どもから学ぶ事も沢山あり、何かを学ぶ事も沢山あり、素晴らしい親子関係を築いていけたら良いなと思いました。

広報紙コンクール

2020年2月22日(土)四日市市総合会館に於いて、2019年度四日市市PTA連絡協議会広報紙コンクール表彰式が開催されました。

ここに厳正なる審査の決果、入賞校のご報告を致します。

本年度は幼・小・中合わせて32校・園の応募がありました。どの作品も、子どもたちの様子や学校・園のPTA活動がユニークに掲載されていて見ごたえのあるものばかりで、広報紙を作成された皆様の思いが集結されていたように感じました。



最優秀賞
川島小学校「さんぼみち」

- 最優秀賞 川島小学校 「さんぼみち」
- 中野新聞四日市ホームニュース賞 八郷西小学校 「竹の子」
- 優秀賞 富洲原小学校 「すずかけ」・桜中学校 「桜」
- 入選 内部幼稚園 「ちゅ〜りっぷ」・小山田小学校 「おやまだ」
- 表紙部門賞 大池中学校 「おおいけ!!!」
- レイアウト部門賞 大矢知興譲小学校「興譲」・富洲原中学校 「TOMISUHARA」
- 表紙部門賞 大谷台小学校「大谷台」・常磐中学校「ときわぎ」
- 表紙部門賞 三重小学校「さぎそう」・西朝明中学校「にしあさけ」



総務委員会

総務委員会は各ブロック長(単P会長)と教職員代表の先生とで構成されたメンバーで、主に常任議員会議(会長会)の司会進行、ブロック会や人権学習会などの運営に携わってきました。

委員会では色々な課題について意見交換し、会議の運営や行事にも積極的に参加していただき、全員が協力し合い活動する事ができました。

来年度も継続してより良い活動ができることを望んでいます。

- 伊藤 礼子 (委員長・西陵中P)
原田 努 (副委員長・内部東小P)
西尾 雅紀(富田中T)
渡部 祥江(富洲原小P)
荒木 照彦(羽津北小P)
野坂 泰行(中部西小P)
樋口みやび(西笹川中P)
中村 祐介(神前小P)
伊藤 英利(保々小T)
服部 義弘 (市P連会長・大池中P)



中学校委員会

中学校委員会では、今年度『中学生のスマホとの関わり』をテーマにブロック委員、教員代表の8名で活動してきました。

今年度は、年6回の委員会を開催しました。子供たちがスマホをどの様な事に使い、どの様な事に困っているのかなどを知りたく、協議をしてきました。そこで、各ご家庭のスマホを使うルールなどを調査しようと思ひ、子供たちにアンケート調査を実施しました。

ト調査を実施しました。アンケートの結果は中学校委員会便りに載せていますので、ご覧いただけます。ご参考になりましたら幸いです。ご協力いただき、各学校の先生、生徒の皆様ありがとうございました。

委員の皆様にはお忙しい中、委員会活動や高校展開催の準備などご協力いただき大変感謝しております。

- 松本 和也 (委員長・塩浜中P)
伊藤 素浩(朝明中P)
平田 正志(橋北中P)
南 圭介(中部中P)
仲村 洋子(内部中P)
川口 智基(大池中P)
島田 智司(大池中T)



小学校委員会

小学校委員会では、「交通安全」をテーマに、4月からたよりの発行に向けて活動をしてきました。

「子供も大人も事故に遭わない、事故を起こさない」をテーマに、日頃の安全チェックの重要性、交通事故が起きやすい場所の再確認など、親子で一緒に話し合いができるような小学校委員会だよりを作成しました。

ぜひ、「一読ください。」委員さんの協力のおかげで1年間楽しく活動させていたことが出来ました。本当にありがとうございました。

- 西内 伸行 (委員長・大谷台小P)
石原 文香 (副委員長・羽津北小P)
一宮 亜理沙(下野小P)

矢野 みさ子(大谷台小P)
加藤 知子(常磐小P)
川喜多 一隆(河原田小P)
前田 千歳(三重北小P)
小井 美樹(海蔵小T)



こども園幼稚園委員会

こども園幼稚園委員会は、委員長と各ブロックより委員5名・教職員代表1名の計7名で活動しています。

委員会は年5回行い、こども園幼稚園交流会の立ち上げから運営・園だより作成について話し合いをしました。

11月7日(木)に市内のこども園・幼稚園の代表の方々にご参加いただき、橋北交流会館にて交流会を開催し、講師の先生の講話と子育てについて沢山の意見交換がされ、有意義な時間となりました。

- 亀田 京子 (委員長・楠小P)
富谷 幸美(富洲原幼P)
千葉 智子(海蔵幼P)
坂田 明穂 (塩浜こども園P)
加藤 円香(内部幼P)
桂山 綾子(川島幼P)
山田 裕一(塩浜小T)



広報委員会

広報委員会の主な活動は、この市P連ニュースの発行と広報紙コンクルの開催です。

昨年5月に「広報紙づくり研修会」を開催し、沢山の先生にご出席いただきました。

広報紙コンクルでは、各学校から沢山の応募があり、どの作品も学校での活動や子ども達の様子が感じられ、素晴らしいものばかりでした。

- 齋藤 有末 (委員長・八郷西小P)
川井 奈穂子 (副委員長・三重西小P)
西本 知美(富洲原中P)
道清 智子(羽津中P)
小林 舞(塩浜小P)
森本 有希(日永小P)
木下 展子(三重平中P)
丹羽 浩也(笹川中T)



顧問



市P連顧問としての子どもたちの育成と健やかな成長のために、学校・園と保護者をつなぐ架け橋として、温かいご助言、ご指導をいただきました。

- 岡山 泰三先生 (山中中学校長)
野口 裕先生 (羽津北小学校長)
山内 祥代先生 (海蔵幼稚園長)

常任議員会 教育長講話

2019年7月13日(第2回常任議員会において、葛西教育長にお越しいただき、「四日市の教育について」のお話をいただきました。

四日市の教育の現状、そして新しい教育の取り組み、学びの環境の充実をテーマに具体的なお話していただきました。

先生、保護者、地域の方が協力しあい取り組む必要性を感じる講話でした。

常任議員会 寺本さん講話

2019年9月14日(第3回常任議員会において、日本PTA全国協議会の寺本 充さんによる「PTA活動のはなし」の講話がありました。

まず始めに、PTA誕生から歩みまで、そしてPTAとは何なのか、その役割や存在意義など、具体的に話していただき、講演会に参加された方々がうなずく場面があり、とても分かりやすい内容でした。

こども園幼稚園交流会

2019年11月7日(木)橋北交流会館四日市こども子育て交流プラザにて、こども園幼稚園交流会を開催しました。

八郷小学校で校長先生をしておられる三輪真裕美先生にお越しいただき、「私の人生二度きり、楽しく子育て」をテーマに講話していただきました。

講話が始まると、先生が履いてみえた靴を突然脱いで参加者の前で話を始められ、その姿は会場の緊張した空気を一瞬にして温かなものに変えてくださいました。

裸足のまま会場を駆け回り、軽快なトークに自然と笑いが生まれます。じゃんけんゲームをしたり、車のナンバープレートに秘密の話を、魚の向きを書いたトリックアートなど、先生の質問に答えているうち、思い込みや見た目にとらわれていた事に気付かされました。

自分が勝手に作り上げた常識で子どもを枠にはめて子育てしていませんか? 「聞く」ではなく「耳」で「聴く」ことをしてあげていませんか? と私たちに問いかけます。

言葉一つ一つが心に響くお話に参加者の皆さんも大きくうなずいてみえ、楽しく子育てするヒントが得られた講話でした。

講話後、グループ内では話が弾みスムーズに意見交流ができました。

アンケートにも「今後の子育ての参考になりました」「先生の話をもうと聞きたくたです」「など嬉しい意見をくださり、大変にご好評いただいた交流会となりました。」



家庭の日講演会

夢を叶える黄金の5ヶ条

講師 砂川 正美さん (夢工房)



2019年11月10日(四日市市勤労者・市民交流センターにて)家庭の日の講演会が行われました。

講師には、小・中・高・大学・社会人と野球一筋で過ごし、引退後は少年野球のコーチ・監督を15年勤められた砂川正美さんにお越しいただきました。

高校に入って甲子園に行きたいと願った砂川さんの4人の息子さん達へ、夢に対して強く思い、絶対と思えば夢は実現できると「夢を叶える黄金の5ヶ条」を伝え、続けさせたことで習慣化し、見事4人共夢を実現できたそうです。

その5ヶ条とは、①夢を決めて紙に書く。②夢が実現・成功した時の格好い姿を想像して喜ぶ。③相手よりいつでも先に伝えるように努力する。④学校でも家でも履き物を揃える。友達に格好つけていると思われても負けず行動できたらだんだんキドキキしなくなる。心に筋肉がついたら強くなる。⑤ありがとうございます。相手に感謝を伝える。

編集後記

多くの方々のご協力のおかげで、本年度も「市P連ニュース」を無事発行することができました。この1年間、広報委員会として、様々な活動に参加しながら、あらためて人と人との結びつきや、学校と保護者、地域が共に子どもたちを見守り、育てていくことの大切さを感じる事ができました。と同時に「令和」という新しい時代を迎え、他者と繋がりがながら成長し、新たなものを創造していく子どもたちのために、今後、PTAとして何ができるか、何を考えるべきかを考えさせられる1年間でもありました。

どのように時代が移り変わろうとも、「保護者と教員が学ぶあうこと、保護者と教員が学ぶあうこと、保護者と教員が学ぶあうこと」を大切にしながら、その成果を家庭・学校・地域に還元していくという初心を忘れず、今後の市P連活動がますます充実していくことを願って、編集後記とさせていただきます。最後にありますが、この紙面を作成するにあたり、たくさんの方々にご協力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

PTA会員寄稿

我が家は共働きで実家が遠いので、子どもが小さい頃は保育園、小学校に上がってからは学童保育に大変お世話になりました。学童保育の先生方は自分の親と同世代の方で、子どもにとってまさにおばあちゃん。お手玉や竹馬、百人一首に編み物…。自分達ではできない事を沢山教えてもらいました。子どもが「今日はこんなことしたよ!」と話してくれるのも楽しみでした。寒い日には温かい味噌汁を作ってくれたり、時には先生同士の世間話を子どもたちが訳知り顔で聞いていたり…大事な時は叱ってくれ、まるで実家に預けているようでとても安心でした。親の私にも優しい言葉をかけてくれて、私自身も随分助けられました。子どもたちには寂しい思いをさせたとする反面、とてもいい経験をさせてもらったと思っています。

私が子どもの頃(随分昔ですが)は、親以外の大人が周りに沢山いて、教えてもらったり叱られたりしながら、周囲との関わり方を学んでいったように思いますが、今はそんな関わりが少なくなっているように感じます。そうなるのは、お互いをあまり知らないからかもしれません。共働きの家庭がますます増えていく中で、安心して子どもを預けられる場所はもちろん、子どもの為にも自分の為にも地域での繋がりを強くして、お互いを知る努力をしていく事が大切だと感じています。

今私たちの地域では、学校と地域が連携してコミュニティスクールが開かれています。子どもと地域の大人を結びつける機会だと思います。今はお世話になる側ですが、いつか協力できるようになればと思っています。